

# 八重咲き、複色あじさい新品種「きらきら星」の育成

## 1. 試験のねらい

あじさいは、県内の鉢物生産においてシクラメンに次ぐ主力品目であり、母の日の主力商材となっている。また、近年、鉢物の価格が低迷しているなかで、特徴のある品種は高単価で優位な取り引きが行われている。そこで、消費ニーズに合った商品性の高いあじさい品種の開発を行う。

## 2. 育成経過

平成 11 年に八重咲き、複色の品種育成を目標に、「八重咲き・ガクアジサイ型・単色」系統を母親とし、「フラウヨシコ」（一重咲き・アジサイ型・複色）を父親として交配し、6 個体を得た。平成 13 年にそのうちの一重咲き・ガクアジサイ型・単色の 1 個体について、自殖交配を行い、得られた個体の中から、平成 21 年に八重咲きで装飾花が覆輪タイプの複色を呈し、がく片の縁に深い切れ込みを有する系統を選抜し、「あじさい栃木 1 号」の系統番号を付した。特性調査の結果、開花品質特性が優れたことから、平成 22 年 10 月に品種登録を出願し、平成 23 年 1 月 5 日に「きらきら星」として出願公表された。

## 3. 特性の概要

- (1) 花序は平型のガクアジサイ型で、直径は「城ヶ崎」に比べて大きい（表－1）。
- (2) 装飾花は八重咲きで、装飾花のがく片の数は 14 枚と「城ヶ崎」に比べて多い（表－2）。
- (3) 装飾花の直径は「城ヶ崎」に比べて大きく、がく片の縁に深い切れ込みが入る（表－2）。
- (4) 装飾花は覆輪タイプの複色で、主色は 87A（赤味紫）、覆輪外側の複色は 155C（紫白）である（表－3）。
- (5) 樹形は開張性で、樹高は中程度である（表－4）。
- (6) 枝の斑点は、「城ヶ崎」に比べて少なく中程度である（表－4）。

## 4. 栽培上の留意点

- (1) 分枝数の確保と花芽の充実を図るために、挿し木は 5 月中旬から 6 月上旬、摘心は 8 月中旬までに行うことが望ましい。
- (2) 母の日向けの作型は、1 月下旬に定植後、最低温度 15℃を目安に管理を行うことで、5 月上旬の開花が見込める。

## 5. 成果の要約

あじさい新品種「きらきら星」は、八重咲きのガクアジサイ型で、装飾花が覆輪タイプの複色、「城ヶ崎」に比べて装飾花が大きい特徴を有する。また、花色は主色が赤味紫、覆輪外側が紫白で、がく片の縁に深い切れ込みが入る等、既存の品種にはない優れた装飾花の特徴を有しており、優美で斬新なイメージのあじさい品種として有望である。

（担当者 園芸技術部 花き研究室 小玉雅晴）

表-1 新品種「きらきら星」の花序の特性

品種名	花序の形	花序の花形	花序の直径 (cm)
きらきら星	平型	ガクアジサイ型	17.5×18.4
城ヶ崎	平型	ガクアジサイ型	14.1×14.5

表-2 新品種「きらきら星」の装飾花の特性

品種名	装飾花数 (輪)	装飾花 の花形	装飾花の直径		装飾花のがく 片数(枚)	がく片の縁 の切れ込み
			(mm)	程度		
きらきら星	8	八重咲き	65×66	大	14.0	有(深い)
城ヶ崎	8	八重咲き	53×54	中	12.5	無

表-3 新品種「きらきら星」の装飾花の花色特性

品種名	装飾花の単色・複色 の別(複色のタイプ)	装飾花の色	
		主色	複色
きらきら星	複色(覆輪)	87A(8912:赤味紫)	155C(8301:紫白)
城ヶ崎	単色	97A(7603:浅紫青)	—

注. 装飾花の色はRHSカラーチャート、( )内は日本園芸植物標準色票にて表示

表-4 新品種「きらきら星」の草姿特性

品種名	樹形	樹高	枝の斑点	葉長 (mm)	葉幅 (mm)
きらきら星	開張性	中	中	118.5	73.1
城ヶ崎	開張性	中	やや多い	120.5	70.7



写真-1 「きらきら星」の開花状況